

第5回大和川流域委員会 議事概要

開催日時：平成17年3月14日(月)13:00～16:00

場所：王寺地域交流センター リーベル王寺東館5階

委員出席数：出席15名、欠席2名

1. 議事

(1) 第4回大和川流域委員会審議報告

第4回大和川流域委員会審議報告がなされた。

(2) 委員からの情報提供「空間利用」、「環境」

- (a) 黒田委員：前回問題になった古代の大和川にアユがいたかどうかについて、万葉集に初瀬川のアユがうたわれていることから、生息していたことがわかる。

「子どもたちによる矢田地区の大和川河川敷自然公園づくりについて」

矢田地区の大和川河川敷自然公園は、子供たちの主体的活動が、周りを動かした。「子どもが変われば、親が変わり、親が変われば、地域が変わる」という状況が作り出されてきた。地域と結びついた学校教育との観点を重視しながら、空間利用、環境問題を考えて欲しい。

- (b) 小松委員：「大和川学習と子どもたち」

大和川での学習を通じて、子どもたちが川への興味や願いを持ち、地理、歴史、そして環境への関心を持ち始めることを期待している。「ワースト1」という不利な条件も大和川学習の取り組みのエネルギーになっている。300周年の盛り上がりを確かなものにしていくため、市民のグループ作りを広げたい。瀬と淵浄化施設を堺に設置して、子どもたちが川で遊べる拠点にしたい。

(3) 大和川の現状説明「利水」

河川管理者から「利水」についての現状説明がなされた。

(4) 大和川の「空間利用、環境、利水」についての意見交換の要旨

(a) 空間利用

- ・川をきれいにしようと思うときに、人の暮らしというものが継続的に反映されていないと持続的なきれいさは望めない。御渡りが復活され、継続的に行われれば、神事に関係する川だからきれいにしようという人の意識が働くのではないか。ぜひ継続的な復活が望まれるというふう感じた。神事が途切れるような要因というのは何か。国交省で支援できることは是非していただきたい。
- ・御渡りの神事は、担ぎ手の減少など、神社や地域の事情により中断されたと思われる。
- ・河川管理者としては川に入りやすい低水護岸の設置等、御渡りが継続的に実施されるよう治水に影響を与えない範囲内の支援としては検討していきたい。

(b) 環境

- ・川というのはおそらく洪水と渇水という大きな二つの攪乱要因があり生態系だと攪乱というものが一つの生物群集を維持する要因にもなっている。渇水によって生物相が大きく変わったという情報があれば教えていただきたい。
- ・岸寄りに草があるので川の中の生物は流されにくい。流されたとしても遡上して全体の現存量はあまり変わらない。生物にとって大切なのは早瀬、平瀬、淵があることだと思う。

(c) 利水

- ・水質の問題で閉鎖された浅香山の浄水場が大和川の水質浄化に伴い復活することが淀川に対する利水の負担を小さくするというこも考えられる。このことの見通しについて教えて欲しい。
- 見通しについては何も申し上げることはありませんが、水道の水源になりうるほどの水質に復活したいという話があったということです。使うかどうかは市民の方々や水道事業者の判断で決めることだと思います。現在は、大和川流域に暮らしている人は他の水系のダムや琵琶湖の水を飲んでいるということです。
- ・大和川水系全体の慣行水利権、許可水利権については全体を整理したほうが後々参考になると思う。
 - ・桜井市の上水源である初瀬ダムの水質や土砂の堆砂状況はどうなっているのか。
- 初瀬ダムは現在、水道水源として問題になる水質状況ではない。堆砂も想定以上に大幅に進んでいるという状況ではない。むしろ天理ダムのアオコの発生や堆砂の進行が問題となっており、対応を検討中である。
- ・慣行水利権の許可水利権への切り替えは大和川水系でどの程度進んでいるのか、利水管理の点から現状を教えて欲しい。
 - ・市街化が進んで、水田が減少している流域の土地利用の変化に応じて必要な水の量も変わってきていると思われる。水利用の量を現在だけ取り上げて提出するのではなくて、水の利用量がこれに応じてどう変わってきたかというようなことを対応させないと、これから今のままでいいのかどうかということが見えてこないと思う。
 - ・柏原地点で濁水流量がふえてきているように見えるが、奈良地域の土地利用の変遷によるものなのか、そのほかの原因が考えられるかとかを少し検討しないと、将来の大和川の利水の状況がこれでいいのか、何を考えていかないといけないのかということが見えてこないのではないかと思う。
 - ・水利用に関しては、流域全体として利水に関する水収支のような図にした方がわかりやすい。
 - ・水の需要と利用の現状がどういう状況なのか、将来の利水を考えるうえで有用な情報になる資料があれば教えて欲しい。

(d) 利水と治水

- ・条里制に基づき形成された土地利用や巧みな河川利用の形態が増水時に冠水の原因となっているケースが多いと思う。
- ・環濠集落特有の「請堤」が最近不用意に壊されることが多くなっている。奈良盆地の治水を考えるうえで、洪水を遊水させる請堤は非常に重要であり、この点を再認識する必要がある。
- ・奈良盆地の周辺でかなり大規模な圃場整備事業がされてきているが、地形を見ても元来土石流が起りやすい地区もあり、その可能性を危惧する。
- ・ダムの堆砂の問題は利水、治水の両方に絡んでくる。現状の堆砂状況や経緯に関する情報が必要である。

2. その他

第6回大和川流域委員会は6月中旬頃開催を目途に日程調整することが報告された。

以上